

[illegible]

# 照会相談業務申込書添付資料

(1/2)

照会相談者名		【 1 】				STL/TTL/TSL		【 2 】						
ルート情報	ルート名	【 3 】	～	【 3 】	間	【 4 】	方式	登録コード	【 5 】	ルート条件	【 6 】	AD識別	【 7 】	
	記事	01局代表周波数		【 8 】		[MHz]	送信、受信	送	周波数配置(N、S)	N				
	IDコード	下り方向		【 9 】	1、上り方向	【 9 】	免許人氏名		【10】					
局情報	局名・局番号			カナ ( 【12´】 )		局番号	カナ ( 【12´】 )		局番号					
	( 都道府県 : 【11】 )			【12】		( 01 )	【12】		( 15 )					
	局位置			東経	【13】 °【13】 ´【13】″	東経	【13】 °【13】 ´【13】″	北緯	【13】 °【13】 ´【13】″	北緯	【13】 °【13】 ´【13】″			
	電波の方向及び偏波面			送信側		→→ (【14】) →→		受信側						
	下り方向 局番号昇順	アンテナコード	レトームコード	【 15 】	【 16 】	【 15 】	【 16 】							
		アンテナ名		【17】				【17】						
		アンテナ利得	アンテナ海拔高	【18】 [dB]	【19】 (m)	【18】 [dB]	【19】 (m)							
		付加損失		【20】 [dB]		【20】 [dB]								
		給電線損失		【21】 [dB]		【21】 [dB]								
		分波器等損失		【22】 [dB]		【22】 [dB]								
		送信機出力等		【23】 [dBm]		SDコード	【 24 】							
	上り方向 局番号昇順	アンテナコード	レトームコード	【 15 】	【 16 】	【 15 】	【 16 】							
		アンテナ名												
		アンテナ利得	アンテナ海拔高	[dB]	(m)	[dB]	(m)							
		付加損失		[dB]		[dB]								
給電線損失		[dB]		[dB]										
分波器等損失		[dB]		[dB]										
送信機出力等		SDコード		【 24 】	[dBm]									
反射板情報	上記の中継区間に 反射板局を含む場合、 その局情報を右に記入 局番号は左の局→ 反射板→右の局の 順に付与する		カナ	( 【25´】 )	局番号	【 01 】	【 15 】							
			局名	【25】		SD 情報	アンテナコード	記入不要		【31】				
			局番号	【 02 】			アンテナ名			【32】				
			局位置	東経	【26】 【26】 ´【26】″		アンテナ利得	[dB]	【33】 [dB]					
				北緯	【26】 【26】 ´【26】″		レトームコード	【 34 】						
			アンテナコード	【 27 】	SD間隔1		(m)	【35】 (m)						
			反射板海拔高	【28】 (m)	【36】									
			反射板コード	【29】								特記		
			反射板角度	【30】 °										

M、Nバンド (rat30002.xls)

1 / 2

# 照会相談業務申込書添付資料

(2/2)

複数 反射 板 情 報	カナ	( ) ( ) ( )			記事	
	局名					
	局番号	【 】	【 】	【 】		
	局位置	東経	° / "	° / "	° / "	
		北緯	° / "	° / "	° / "	
	アンテナコード*	【 】	【 】	【 】		
	反射板海拔高	(m)	(m)	(m)		
	反射板コード	【 】	【 】	【 】		
反射板角度	° ]	° ]	° ]			
品質 評価 情 報	局番号		【 01 】		【 15 】	
	伝 搬 路 条 件	希望 波	伝搬路種別コード*		【37】 ▾ : 【37´】 ▾ : 【 】 : 【 】	
			平均伝搬路地上高		【38】 : 【38´】 : (m)	
		反 射 波	正 規	リッジ	コード*	【39】 ▾ : 【39´】 ▾
					位置	【40】 : 【40´】 (km)
					標高	【41】 : 【41´】 (m)
			反 射 点	コード*	【42】 ▾ : 【42´】 ▾	
				標高	【43】 : 【43´】 (m)	
				不 規 則	コード*	【44】 ▾ : 【44´】 ▾
		最遠反射点	【45】 : 【45´】 (km)			
		最近反射点	【45】 : 【45´】 (km)			
	断 率 改 善 ・ 素 子 規 格 等	EQLコード*		【 】 記入不要	【 【46】 】 記入不要	
		降雨強度(10GHz以上)		(mm/分)		
		瞬断率・断率規格		【48】 E— 【48】 (/km)		
		最遠回線長		【49】 (km)		
特 記 事 項 等	その他項目	受信帯域幅	【50】 (MHz)	受信機熱雑音	- 【51】 (dBm)	
		QAM/クロック周波数	【52】 (MHz)			
		01局干渉改善度(P側)	記入不要 [dB]	15局干渉改善度(Q側)	記入不要 [dB]	
	多方向方式	扇形アンテナ正対方位角	(度)	扇形アンテナ正対仰俯角	(度)	
	入力年月	【54】 年	【54】 月	投入者名	【54】	

M、Nバンド (rat30002.xls)

2/2

# 照会相談業務申込書添付資料

(1/2)

照会相談者名		【 1 】				STL/TTL/TSL		【 2 】							
ルート情報	ルート名	【 3 】		～	【 3 】	間	【 4 】	方式	登録コード	【 5 】	ルート条件	6	AD識別	【 7 】	
	記事	01局代表周波数		【 8 】			[MHz]	送信、受信	送	周波数配置(N、S)	N				
		IDコード	下り方向		【 9 】	上り方向	【 9 】	免許人氏名	【10】						
局情報	局名・局番号		カナ ( 【12´】 )		局番号		カナ ( 【12´】 )		局番号						
	( 都道府県 : 【11】 )		【12】		( 01 )		【12】		( 15 )						
	局位置		東経	【13】	°【13】	′【13】	″	東経	【13】	°【13】	′【13】	″			
			北緯	【13】	°【13】	′【13】	″	北緯	【13】	°【13】	′【13】	″			
	電波の方向及び偏波面		送信側 →→ (【14】) →→ 受信側												
	下り方向 局番号昇順	アンテナコード	レドームコード	【15】	【16】	【15】	【16】								
		アンテナ名		【17】				【17】							
		アンテナ利得	アンテナ海拔高	【18】	[dB]	【19】	(m)	【18】	[dB]	【19】	(m)				
		付加損失		【20】				[dB]	【20】		[dB]				
		給電線損失		【21】				[dB]	【21】		[dB]				
		分波器等損失		【22】				[dB]	【22】		[dB]				
		送信機出力等		【23】				[dBm]	SDコード	【24】					
	電波の方向及び偏波面		受信側 ←← ( ##### ) ←← 送信側												
	上り方向 局番号昇順	アンテナコード	レドームコード	【15】	【16】	【15】	【16】								
		アンテナ名													
アンテナ利得		アンテナ海拔高	[dB]	(m)	[dB]	(m)									
付加損失						[dB]			[dB]						
給電線損失						[dB]			[dB]						
分波器等損失						[dB]			[dB]						
送信機出力等		SDコード				【24】	[dBm]								
反射板情報	上記の中継区間に 反射板局を含む場合、 その局情報を右に記入 局番号は左の局→ 反射板→右の局の 順に付与する	カナ	( 【25´】 )		局番号		【 01 】		【 15 】						
		局名	【25】		S D 情 報	アンテナコード			【31】						
		局番号	【 02 】			アンテナ名			【32】						
		局位置	東経	【26】		°【26】	′【26】	″	アンテナ利得	[dB]	【33】	[dB]			
			北緯	【26】		°【26】	′【26】	″	レドームコード	【34】					
		アンテナコード	【27】		SD間隔1	(m)	【35】	(m)							
		反射板海拔高	【28】		(m)	【36】									
		反射板コード	【29】												
		反射板角度	【30】		°										
						特 記									

B～Gバンド (rat30003. xls)

1 / 2

# 照会相談業務申込書添付資料

(2/2)

複数 反射 板 情 報	カナ	( ) ( ) ( )			記事	
	局名					
	局番号	【	】	【	】	
	局位置	東経	° / "	° / "	° / "	
		北緯	° / "	° / "	° / "	
	アンテナコード*	【	】	【	】	
	反射板海拔高	(m)	(m)	(m)		
	反射板コード	【	】	【	】	
反射板角度	° ]	° ]	° ]			
品質 評価 情報	局番号		【 01 】		【 15 】	
	伝 搬 路 条 件	希望 波	伝搬路種別コード*		【37】 : 【37´】 : 【 】 : 【 】	
			平均伝搬路地上高		【38】 : 【38´】 : (m)	
		正 規	リッジ	コード*	【39】 : 【39´】	
				位置	【40】 : 【40´】 (km)	
				標高	【41】 : 【41´】 (m)	
			反射点	コード*	【42】 : 【42´】	
				標高	【43】 : 【43´】 (m)	
				不 規 則	コード*	【 】 : 【 】
		最遠反射点	: (km)			
		最近反射点	: (km)			
		断 率 改 善 ・ 素 子 規 格 等	EQLコード*		【 】	【 】
			降雨強度(10GHz以上)		【47】 (mm/分)	
	瞬断率・断率規格		【48】 E- 【48】 (/km)			
	最遠回線長		【49】 (km)			
	特 記 事 項 等	局情報	再生・非再生中継コード*	記入不要		
		その他項目	受信帯域幅	【50】 (MHz)	受信機熱雑音	- 【51】 (dBm)
			QAM/QPSK周波数	記入不要 (MHz)	送信ろ波器コード*	【53】
入力年月		【54】 年	【54】 月	投入者名	【54】	

B～Gバンド (rat30003. xls)

2 / 2

【1】照会相談者名（全角または半角・混在可）

照会相談業務申込をする事業者名（または組織名）を25文字以内で記入して下さい。

（例）

日本放送協会●●放送局  
●●FMコーポレーション  
エフエム●●株式会社

【2】STL／TTL／TSL（選択：数字）

該当する数字を選択して下さい。

なお、監視・制御回線の場合は、空欄として下さい。

■ルート情報の欄

【3】ルート名（全角または半角・混在可）

送信局～受信局の無線局識別信号又は呼び出し名称を漢字カナ英字等で記入して下さい。

記入は1無線区間を1ルートとしますので、中継局を挟む場合は2ルートに分けて下さい。

（詳しくは、後述する■局情報の欄をご覧ください。）

【4】方式（半角）

下表から該当する方式名を記入して下さい。

方式名	変調方式	伝送容量	備 考	用 途
Q-40MT-D	6 4 Q A M	4 0 . 2 Mbps	T S 方式	S T L / T T L
Q-40MT!-D	6 4 Q A M	4 0 . 2 Mbps	T S 方式、電力制限あり	S T L / T T L
Q-24MF-D	O F D M	2 3 . 6 Mbps	I F 方式	S T L / T T L
Q-24MFx-D	O F D M	2 3 . 6 Mbps	I F 方式、低雑音方式	S T L / T T L
Q-24MFx!-D	O F D M	2 3 . 6 Mbps	I F 方式、低雑音方式、電力制限あり	S T L / T T L
Q-23MF-D	O F D M	2 3 . 4 Mbps	I F 方式、独立同期方式	S T L / T T L
Q-23MF!-D	O F D M	2 3 . 4 Mbps	I F 方式、独立同期方式、電力制限あり	S T L / T T L
Q-40MT-U	6 4 Q A M	4 0 . 2 Mbps	T S 方式	T S L
Q-40MT!-U	6 4 Q A M	4 0 . 2 Mbps	T S 方式、電力制限あり	T S L
Q-84MT-U	6 4 Q A M	8 4 Mbps	T S 方式	T S L
Q-84MT!-U	6 4 Q A M	8 4 Mbps	T S 方式、電力制限あり	T S L
Q-2250AT-D	6 4 Q A M	2 2 5 0 kbps	音声	S T L / T T L
P-550AT-D	4 P S K	5 5 0 kbps	音声	S T L / T T L
Q-2250AT-U	6 4 Q A M	2 2 5 0 kbps	音声	T S L
P-550AT-U	4 P S K	5 5 0 kbps	音声	T S L
Q-1125CT	6 4 Q A M	1 1 2 5 kbps	監視・制御	監視・制御

\*上記の方式に該当しないものについては、A R I Bへお問い合わせ下さい。

【5】登録コード

A R I B使用欄のため記入不要です。

【6】ルート条件（半角）

「6」と記入して下さい。

\*B～Gバンドは「6」のため記入不要です。

【7】AD識別（半角数字）

「1」と記入して下さい。

\*コチャネル方式を使用する場合は、A R I Bへお問い合わせ下さい。

【8】01局代表周波数（半角数字）

下表に示す代表周波数を半角数字で記入して下さい。

周波数帯	代表周波数
B バンド	5 9 0 0 MHz
C バンド	6 5 0 0 MHz
M バンド	6 7 0 0 MHz
D バンド	7 0 0 0 MHz
N バンド	7 6 0 0 MHz
E バンド	1 0 3 0 0 MHz
F バンド	1 0 6 0 0 MHz
G バンド	1 3 0 0 0 MHz

\*CHをあらかじめ指定する場合は、指定するCH周波数を半角数字で記入して下さい。

（例）6 7 1 7 . 6 2 5

【9】IDコード（ルート識別符号）（半角）

申込者が整理上必要な場合には、英数字1文字を使用できます。未記入でも構いません。

【10】免許人氏名（全角または半角・混在可）

当該無線回線の免許人（無線局免許状に記載される免許人）となる会社名または機関名を全角7文字（半角14文字）以内で記入して下さい。

## ■局情報の欄

この欄は、上段の「下り方向」と下段の「上り方向」で大きく分かれています。

上段「下り方向」の左欄（01）に送信局のデータを、右欄（15）に受信局のデータを記入して下さい。

\*下段「上り方向」には記入しないで下さい。

### 【11】都道府県（全角）

送信局（01）が設置されている都道府県名を漢字3文字以内で記入して下さい。

### 【12】局名（全角または半角、混在可）

局名とは、呼出名称を除いた免許申請上の無線局名を表します。

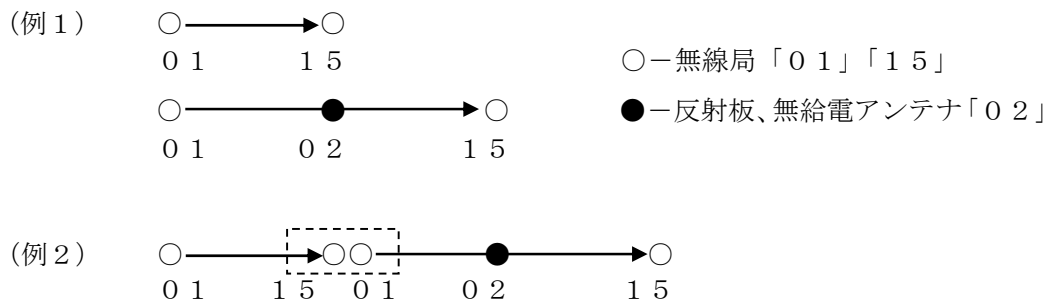
全角6文字（濁点含み半角12文字）以内で記入して下さい。長い名前は省略するなど文字数制限に収まるようにして下さい。

(例)	NHK横浜鶴見テレビ	→	NHK鶴見テレビ
	NTVとうきょうテレビだい2	→	NTV東京第2
	TBSちよだテレビ	→	TBSちよだ

### 【12′】カナ（半角）

局名の上にカタカナでフリガナ（濁点・半濁点も1文字）を10文字以内で記入して下さい。

\*局番号は送信局を01局、受信局を15局としています。なお中間に反射板がある場合は、反射板局を02局として、反射板情報の欄に記入して下さい。詳細は■反射板情報の欄を参照して下さい。



\*（例2）で示した無線回線の場合においては、2ルートに分けたお申込みとなります。

### 【13】局位置（半角）

無線局（送受信空中線）の経度緯度を、世界測地系で秒（″）まで記入して下さい。

(例) 東経 135° 35′ 42″                      北緯 34° 55′ 18″



**【14】電波の方向及び偏波面**

送信電波の偏波面を下表より数字を選択して記入して下さい。  
偏波面の希望がない場合は空白のままとして下さい。

1. V	垂直偏波
2. H	水平偏波
3. V/H	コチャネル方式

**【15】アンテナコード（半角）**

ARIBに登録済みのアンテナの場合、6桁の番号を記入して下さい。  
わからない場合は、空白のままとして下さい。

未登録のアンテナを使用する場合は、別紙「アンテナデータ記入様式」に必要事項を全て記入して申込みと同時にARIBへ提出して下さい。

1 桁 目：「Z」と記入して下さい。

2～4桁目：アンテナ口径（m）を小数点1位まで記入して下さい。

（例）3mのアンテナのときは、「030」と記入して下さい。

5～6桁目：ARIBが一連番号を付与しますので記入の必要はありません。

\*「アンテナデータ記入様式」の提出時には必ず、水平面同偏波特性を添付して下さい。

なお、垂直面同偏波特性は水平面同偏波特性と同一とします。

また、交差偏波指向特性（異偏波に対する改善度）は、下表によって計算します。

異偏波に対する 改善度（dB）	$\theta \leq 10^\circ$	$10^\circ < \theta \leq 30^\circ$	$30^\circ < \theta \leq 90^\circ$	$90^\circ < \theta$
	15	10	5	0

**【16】レドームコード**

レドーム付きの場合は「1」、無しの場合は「0」として下さい。

**【17】アンテナ名（半角）**

アンテナの型式名を英数字記号14文字以内で記入して下さい。

工事設計書に記載する名称と同一として下さい。

**【18】アンテナ利得（半角）**

アンテナの利得（レドーム損失を含む）を0.1dB単位（小数点第2位以下四捨五入）で記入して下さい。

【19】アンテナ海拔高（半角）

アンテナの中心（電波の放射点）の海拔高を1 m単位（小数点以下四捨五入）で記入して下さい。SD受信の場合は通常メインアンテナの海拔高を記入します。

海拔高 = G. L. + アンテナ地上高 で求めます。

（例）アンテナ海拔高 350.4 m のときは、「350」と記入して下さい

【20】付加損失（半角）

送信機アッテネータ（減衰器）の値をdB単位（小数点以下四捨五入）で記入して下さい。

（例）3.2 dBアッテネータを使用する場合「3」と記入して下さい

アッテネータを使用しない場合は、「0」を記入して下さい。

「空白」とした場合は、回線設計の結果から調整した数値をARIBで記入します。

【21】給電線損失（半角）

アンテナに接続される導波管、給電同軸ケーブルなど給電系の損失を0.1 dB単位（小数点第2位以下四捨五入）で記入して下さい。

（例）3.38 dBの損失の場合「3.4」と記入して下さい。

【22】分波器等損失（半角）

分波器、送受共用器、フィルターなどの損失を0.1 dB単位（小数点第2位以下四捨五入）で記入して下さい。

（例）2.21 dBの損失の場合「2.2」と記入して下さい。

【23】送信機出力等（半角）

送信機装置の出力を0.1 dB単位（小数点第2位以下四捨五入）で記入して下さい。

（例）30.08 dBmの出力の場合「30.1」と記入して下さい。

【24】SDコード（半角）

SD（スペースダイバーシティ）を用いない場合は「0」、用いる場合は「4」を記入して下さい。

SDコード	SD方式
0	単一アンテナ
4	受信合成方式

\*受信合成方式以外のSD方式を使用する場合は、ARIBへお問い合わせ下さい。

## ■反射板情報の欄

\*送信局と受信局の間に反射板がある場合に記入して下さい。ない場合は記入不要です。

\*反射板は1ルートで1箇所2枚までです。3枚以上や2箇所以上は、対応できません。

\*局番号は「02」が自動付与されます。

### 【25】局名（全角または半角・混在可）

反射板名を括弧“（）”を含めて、全角6文字（半角12文字）以内で記入して下さい。文字数により（）や数字・カナを半角としても構いません。

（例）           （温海）       （53林班）       （国見山第1）       など

### 【25′】カナ（半角ｶﾅ）

局名の上にカタカナでフリガナ（濁点・半濁点も1文字）を半角10文字以内で記入して下さい。括弧“（）”の記入は不要です。

（例）           アツミ           53ハヤシ           クニヤマダイチ  
                  （温海）       （53林班）       （国見山第1）       など

### 【26】局位置（反射板位置）（半角）

反射板設置場所の経度緯度を、世界測地系で秒（″）まで記入して下さい。

（例）   東経   135° 35′ 42″                   北緯   34° 55′ 18″

### 【27】アンテナコード（半角）

数字6桁を記入して下さい。1桁目は「0」、反射板の大きさを2～6桁目で表します。

1	2	3	4	5	6	桁
<u>0</u>	<u>0</u>	<u>8</u>	<u>0</u>	<u>6</u>	<u>0</u>	
↑		↑		↑		
反射板		横の長さ		縦の長さ		
（固定）		（0.1m単位）		（0.1m単位）		

（例）           横8m×縦6mの反射板の場合：           008060  
                  横10m×縦10mの反射板の場合：           010000

\*指向特性に影響しますので、横×縦は間違わないで下さい。

\*10m以上の反射板等、付与できない場合は、ARIBへお問い合わせ下さい。

### 【28】反射板海拔高（半角）

反射板の中心の海拔高をm単位（小数点以下四捨五入）で記入して下さい。

海拔高＝G.L.＋反射板地上高で求めます。

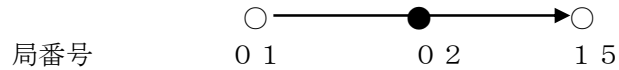
（例）反射板の海拔高が350.8mのときは、「351」と記入して下さい

### 【29】反射板コード

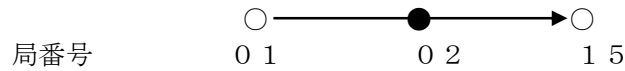
反射板の枚数を下表より数字を選択して記入して下さい。

反射板コード	内 容
1	1ヶ所1枚反射板
2	1ヶ所2枚反射板
9	無給電アンテナ

(例) 反射板1枚：反射板コード：「1」



反射板2枚：反射板コード：「2」

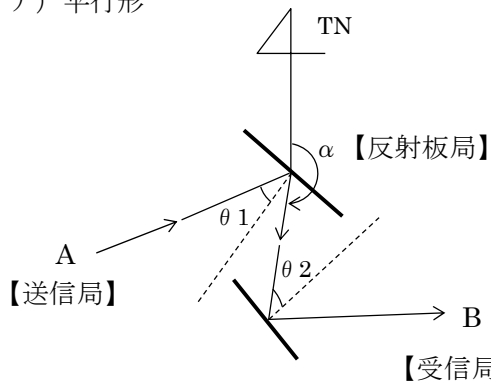


\*パラボラアンテナを背面直結して使用する場合のみ、「9」無給電アンテナを選択して下さい。また直結する給電線の損失を【36】特記欄に0.1dB単位で記入して下さい。

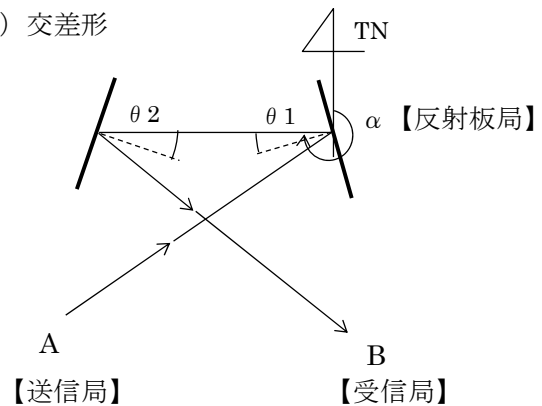
### 【30】反射板角度（半角）

2枚反射板を用いた場合のみ、下図に示すように、1枚目の反射板の中心と2枚目の反射板の中心を結ぶ線の方角を、TNから測った角度「α」を3桁まで（度単位）で記入して下さい。

ア) 平行形



イ) 交差形



[参考]

$$\theta 1 = \frac{(1 \text{ 枚目反射板中心でのTNから見たAの方位角}) - \alpha}{2}$$

$$\theta 2 = \frac{180^\circ - [\alpha - (2 \text{ 枚目反射板でのTNから見たBの方位角})]}{2}$$

## ■ S D情報の欄

S D使用時のみS Dアンテナの情報を記入して下さい。単一アンテナ受信の場合は記入不要です。

【31】局番号、【32】アンテナコード、【33】アンテナ名、【34】レドームコードは、  
【15】～【18】項と同様に記入して下さい。

【3 5】SD間隔1 (半角)

メインの受信アンテナを基準にSDアンテナとの間隔を0.1m単位で記入して下さい。メインアンテナより上側にSDアンテナがある場合はマイナスを付けて下さい。

(例1) メインアンテナより10.0m下側にSDアンテナがある場合: 10.0

(例2) メインアンテナより 5. 5 m上側にSDアンテナがある場合 : - 5. 5

【36】特記

\*【4】項で I F 方式の低雑音方式 (Q-24MFx-D または Q-24MFx!-D) の場合は、雑音増加係数を記載して下さい。(記載例: 雑音増加係数 K = 2, 5 dB)

\*【29】項でパラボラ背面直結を使用する場合には、アンテナコードおよび給電線損失を記入して下さい。

\*その他、A R I Bへの連絡事項等をご記入下さい。

## ■複数反射板情報の欄

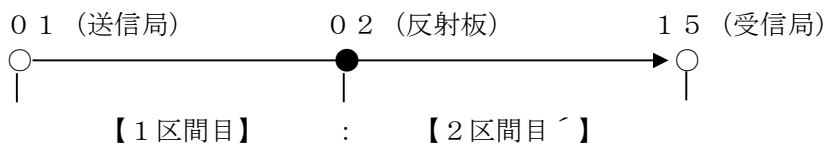
この欄は、記入不要です。

## ■品質評価情報の欄

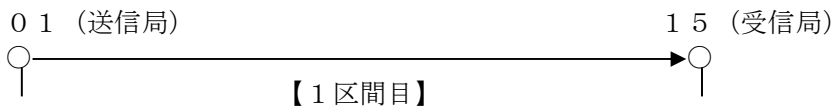
回線設計に必要な無線区間の伝搬路情報を記入します。

\*反射板がある場合、反射板（０２）から受信局（１５）までの２区間目は【数字〃】の各欄に記入して下さい。

### 反射板がある場合



### 反射板がない場合



・希望波情報

【37】伝搬路種別コード

下表に該当する無線区間の伝搬路種別を記入して下さい。

コード	伝搬路種別	伝 搬 路 内 容
1	山岳区間	山岳地帯が区間の大部分を占めている場合
2	平野区間	①平野が区間の大部分を占めている場合 ②山岳地帯ではあるが、湾や入江があって海岸（水際より10km程度までを含む）あるいは海上が含まれる場合
3	海上区間	①海上 ②海岸（水際より10km程度までを含む）で平野

【38】平均伝搬路地上高（半角）

平均伝搬路地上高とは、伝搬路が地上（地表）から平均してどのくらいの高さにあるかという意味です。1m単位（小数点以下四捨五入）で記入して下さい。

$$\text{平均伝搬路地上高} = \frac{A + B}{2} - C *$$

A：上位局の空中線海拔高（m）

B：下位局の空中線海拔高（m）

C：A－B間の平均地表高（m）

\*伝搬路種別が海上区間（【37】伝搬路種別コード＝「3」）で①海上の場合のみ、Cは0mとします。

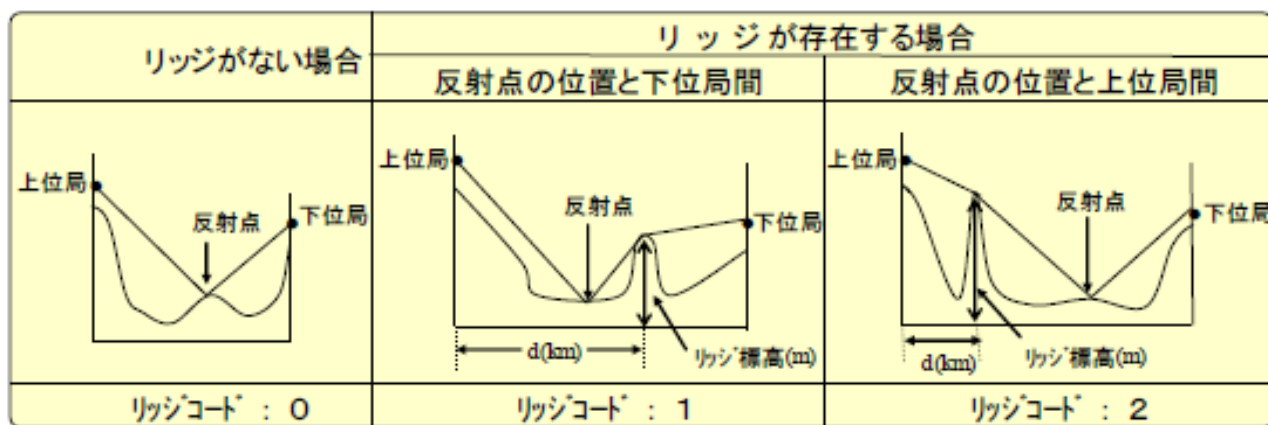
・反射波情報

正規反射波リッジ

正規反射波（注）がある場合、下図を参考にして反射波を遮断するリッジ状況について下表に該当する情報を記入して下さい。

【39】コード	0	リッジなし
	1	反射点と下位局との間にリッジが存在する場合
	2	反射点と上位局との間にリッジが存在する場合 （2つ以上リッジがある場合は、高い方のリッジとする）
【40】位 置	リッジ位置を上位局からの距離として、0.1km単位で記入。	
【41】標 高	リッジ標高を1m単位（小数点以下四捨五入）で記入。	

（注）正規反射波：区間の両端から見た場合に入射角と反射角が同一になる地点の反射波をいいます。



### 正規反射点

下表から該当する正規反射点のコードを必ず記入して下さい。

なお、明らかに正規反射波がない場合は反射波なし（コード6）とします。

【42】コード	1	水面
	2	水田
	3	畑（乾田）
	4	都市
	5	山岳・森林
	6	反射波なし
【43】標高	反射点の標高を1 m単位（小数点以下四捨五入）で記入。	

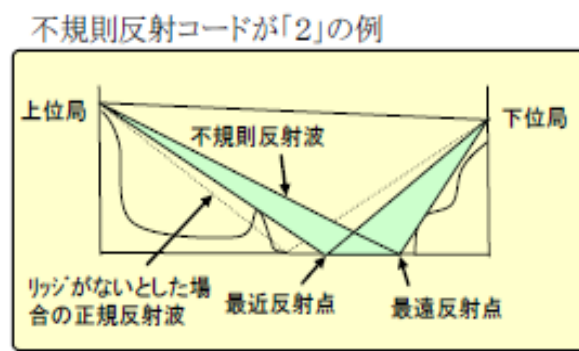
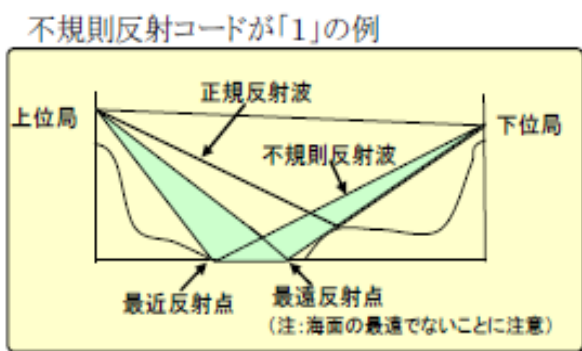
### 不規則反射波

M/NバンドのQAM変調方式の場合のみ、不規則反射について記入します。

【44】コード	0	不規則反射波なし
	1	正規反射点が陸上で、海上を含む伝搬路
	2	正規反射点が海上で、正規反射波を遮るリッジがある場合
	3	正規反射点が海上で、正規反射波を遮るリッジがない場合

### 【45】最遠反射点・最近反射点

不規則波コードが「1」及び「2」の場合には、不規則反射波の範囲を上位局から最近反射点及び最遠反射点を0.1 km単位で記入して下さい。



（注）最遠反射点とは、不規則波が存在する水面区間において、見渡せる範囲の最も遠い反射点であり、最近反射点とは最も近い反射点です。

## ■断率改善・素子規格の欄

### 【46】EQLコード

受信機のEQL（イコライザー）情報について、下表から該当する数字を記入して下さい。

06	なしの場合
07	ありの場合（映像STL／TTL）
14	ありの場合（映像TSL、音声、監視・制御64QAM回線）

\*M、Nバンドを使用し、64QAM方式の場合に記入して下さい。

### 【47】降雨強度（10GHz以上）（半角）

「電波法関係審査基準 別図第35号 0.0075%1分間降雨量の地域分布図」を参照して、申込ルートに最も近い場所の値を読み取り、3桁（0.01mm/分）で記入して下さい。

\*E～Gバンドを使用する場合のみ記入して下さい。

### 【48】瞬断率・断率規格（半角）

1kmあたりの回線瞬断率または回線不稼働率を、仮数部は0.01単位、指数部を整数1桁で記入して下さい。

\*電波法関係審査基準では、下記のとおり定められています。

B～Dバンド	$5 \times 10^{-7}$ （映像STL／TTL）
B～Dバンド	$5 \times 10^{-5}$ （映像TSL）
E～Gバンド	$1.25 \times 10^{-6}$ （映像STL／TTL）
E～Gバンド	$1.25 \times 10^{-5}$ （映像TSL）
M～Nバンド	$4 \times 10^{-7}$ （映像STL／TTL）
M～Nバンド	$1 \times 10^{-6}$ （映像TSL）
M～Nバンド	$4 \times 10^{-7}$ （音声STL／TTL／TSL、監視・制御）

### 【49】最遠回線長（半角）

当該無線区間の予想される最遠回線長をkm単位で記入して下さい。

(例)	B～Dバンド	100km
	M～Nバンド	125km
	E～Gバンド	10km

## ■特記事項等の欄

\*B～Gバンドの再生・非再生中継コードは記入不要です。

### 【50】受信機帯域幅（半角）

受信機等価雑音帯域幅を、0.1MHz単位で記入して下さい。

(例)	64QAM-TS方式	伝送容量40.2Mbpsの場合、6.7MHz
	64QAM-TS方式	伝送容量84Mbpsの場合、14.0MHz
	64QAM-IF方式	伝送容量24Mbpsの場合、6.0MHz
	Q-2250AT-D方式	伝送容量2250kbpsの場合、375kHz
	Q-1125CT方式	伝送容量1125kbpsの場合、188kHz



【5 1】受信機熱雑音電力（半角）

\*受信機熱雑音電力を0.1 dBm単位で記入して下さい。

（参考1）Prni：受信機の熱雑音の求め方

$$Prni = 10 \log (B) + F - 144$$

B：受信機の等価雑音帯域幅（kHz）

F：受信機の雑音指数（dB）

（参考2）IF方式の低雑音方式（Q-24MFx-DまたはQ-24MFx!-D）の場合における、受信機の熱雑音の求め方

$$Prni = 10 \log (B) + F - 144 + K$$

B：受信機の等価雑音帯域幅（kHz）

F：受信機の雑音指数（dB）

K：雑音増加係数（dB） 【3 6】に記載の値

【5 2】クロック周波数（半角）

\*M/NバンドのQAM変調方式のみ、下記の電波法関係審査基準の記載を参考に、クロック周波数をMHz単位で記入して下さい。（小数点第4位まで記入可能）

（参考1）M/Nバンド、音声STL/TTL/SSLの場合  
クロック周波数は375 kHz以下であること。

（参考2）M/Nバンド、監視・制御用の場合  
クロック周波数は188 kHz以下であること。

（参考3）M/Nバンド、伝送容量40.2 Mbpsの場合  
クロック周波数は6.7 MHz以下であること。

（参考4）M/Nバンド、伝送容量84 Mbpsの場合  
クロック周波数は14.0 MHz以下であること。

【5 3】送信ろ波器コード

\*B～Gバンドのみ、下表から該当する数字を記入して下さい。

0	なしの場合
1	ありの場合
2	添付資料記入要領参照

\*送信ろ波器コード「2」は、IF方式のみに適用可能であり、ろ波器コード「1」（送信ろ波器あり）に加えて、受信側（15局）に下記特性の受信ろ波器も具備する場合に「2」を選択して下さい。

主信号（OFDM）に対する 等価受信ろ波器特性	周波数偏差	3.5MHz	4.5MHz	10MHz	20MHz	60MHz
	減衰量	30dB	40dB	50dB	75dB	80dB

出典：電波法関係審査基準 別紙2第5の1(3)別紙(3)-13の表5

【54】入力年・月・投入者

お申込内容の確認や修正などに必要ですので、ご記入下さい。

なお、入力年は西暦下2桁を記入して下さい。

(例) 2019年 4月 電波太郎

以 上